



ほけんだより

健康ひとくちメモ

「脳卒中回復期リハビリテーションについて」

○脳卒中後の動作の改善には回復期リハビリが効果的

脳卒中の場合、一般的な疾患とは違って、急性期病院での治療が終了しても、しばしば麻痺等による日常生活上の不自由が残ることが多く、これを最小限にするために引き続きリハビリ治療が必要となります。

この時期を脳卒中回復期といい、麻痺などの改善のために回復期リハビリテーション病棟という専門的な病棟があります。医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、医療相談員による、チーム医療により、患者さん家族も共に話し合いながら、リハビリ訓練をすすめて行きます。

リハビリ訓練により改善した日常生活動作を、自宅環境でもすぐできるように、まずは病棟を仮の生活環境と見なして、患者さんが「自分から行う日常生活動作」として定着させます。一定の目標に達しますと、試験外泊を利用したリハビリ訓練士による訪問調査の際、退院後担当となる介護保険スタッフと連携をして、自宅環境の調整、改修や福祉機器の選択、ケアプランの策定支援を行い、退院直後の

介護保険への移行をスムーズに整えて退院となります。

○塩原温泉病院での回復期リハビリの特色

私たち塩原温泉病院は、平成13年に県で初めての回復期リハビリ病棟を認可され、平成22年より県内最大規模の回復期リハビリ病棟数となっています。県の指定する県北のリハビリ拠点施設として、平成19年9月に新病院を建築しました。新病院は建築の面からも良い評価をいただいております。日光国立公園内の優れた療養環境を活かすように設計デザインがなされ、全国でも有数の規模の最新の温泉リハビリ施設を利用した訓練が可能な病院として、また、回復期リハビリ病棟に特化した建築構造（自然な離床を促す病棟の縁側、日常生活動作訓練コーナーなど）が、訓練を支援し、総合的にリハビリ治療効果を促進しています。これらデザイン性だけではなく、機能性やリハビリ治療効果を重視している点について高い評価を受け、平成21年日本医療福祉建築賞を受賞しました。

今後も、住民の皆さまにリハビリテーションの面からお役に立てる様に常に新しい取り組みを続けてまいります。

文 栃木県医師会 塩原温泉病院

院長 森山俊男先生